

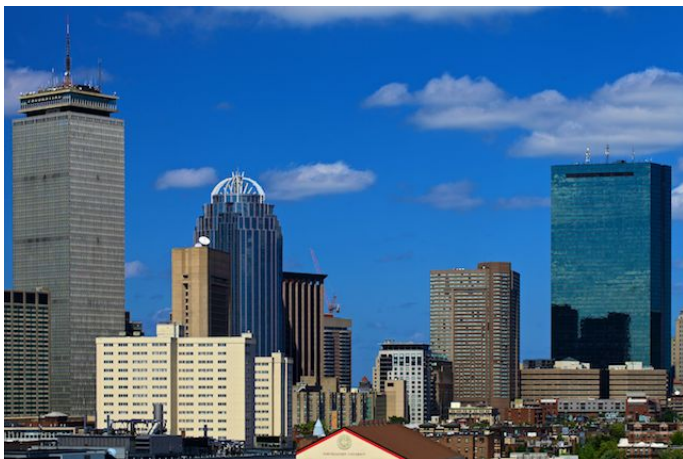
## 2014 年度ノースイースタン大学、ニューヨーク、ワシントン DC 夏期研修報告

【引率・撮影・報告】 明治大学 政治経済学部 特任准教授 松崎武志

明治大学政治経済学部では、8月の約1ヵ月間、過去5年に引き続き、アメリカ東海岸での研修プログラムを実施しました(※プログラム修了者には、GPAに算入される4単位の単位認定がなされます)。旅程は、まず、ボストンにある明治大学協定校ノースイースタン大学に約2週間滞在し、その後、ニューヨークに約1週間、そして最後にワシントンD.C.に1週間弱、それぞれ滞在しました。政経学部生15名、法学部生1名の計16名が参加をし(※本研修プログラムでは政経学部以外の学生の参加も認めています)、ティーチング・アシスタント1名のサポートを受けながら政経学部教員の松崎が引率をしました。

### ノースイースタン大学(ボストン)滞在

8月2日(土)午前、成田発ボストン行の便に乗り、現地時間の同日昼頃にボストン(写真01)に到着しました。空港からはチャーター・バスでノースイースタン大学(※以下「NU」)に向かい(写真02)、NU寮ではNU学生の温かい出迎えを受けました。また、到着して間もなく、NU教員のみなさま、NU生よりウェルカム・レセプションの昼食会を開いても頂き、このレセプションには、国際交流業務の出張でいらっしやっていた政治経済学部長・大六野耕作教授も出席されました。



[01] City of Boston

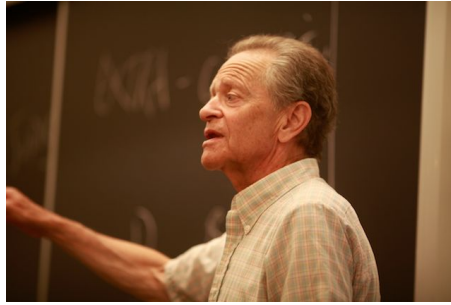


[02] NU キャンパス

2週間のボストン滞在中における主な活動は、NU教員陣によるレクチャーの受講とNU生との交流でした。NU教員陣によるレクチャーは計18回、受けました(※6名の教員がそれぞれ3講義を担当)。当たり前ですが、講義はすべて英語です。教員ごとの講義の主テーマは、アメリカの外交・国家安全保障政策(Prof. Schmitt)、アメリカ大統領の権限(Prof. Gilbert)、代理戦争・尖閣諸島問題(Prof. D'Agati)、日米経済問題(Prof. Simon)、アメリカの政治文化と国家アイデンティティ(Prof. Larson)、そして、アメリカの医療保障・高齢化社会問題および政治言語(Prof. Rochefort)でした(写真03-08)。教員によってレクチャー速度が異なり、パワーポイント資料や板書のサポートもあったりなかったりし、また、使われた専門用語に対する学生の精通度もまちまちであったため、学生のレクチャー理解度にはばらつきが見られましたが、大変貴重な学習機会になったことは間違いなかったようでした(※本報告書末に講義概要を掲載してあります)。



[03] Prof. Schmitt による講義の様子



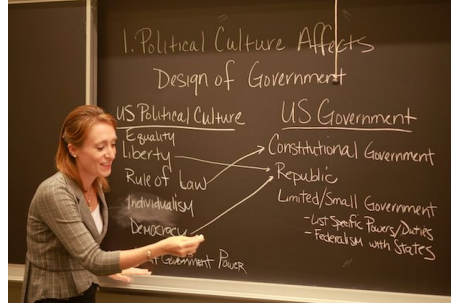
[04] Prof. Gilbert による講義の様子



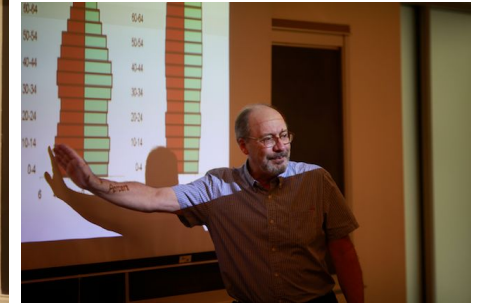
[05] Prof. D'Agati (中央)との記念撮影



[06] Prof. Simon による講義の様子



[07] Prof. Larson による講義の様子



[08] Prof. Rochefort による講義の様子

NU 生との交流については、まず、本研修のボストン編がノースイースタン大学との“ダイアログ・プログラム”となっていることを明記しておきます。両校は、この 5 年ほど、互いに学生グループを送りあうことで親密なつながりを育んできており、このお陰で、明大生が夏に NU を訪れるときは、常に現地学生が温かく迎え入れてくれています。

さて、本年度の研修参加学生たちは、昨年までと同様、NU 生との様々な交流を楽しみ、英語コミュニケーション、異文化について多いに学んでいたようでした。引率教員も参加したものを挙げても、全長約 4 キロのフリーダム・トレイル踏破(写真 09-10)、マサチューセッツ州議会のツアー(写真 11-12)、NU 生リアム・クイン君宅バックヤードでのバーベキュー・パーティ(写真 13-14)、フェンウェイ・パークでのメジャー・リーグ・ベースボール(MLB)観戦(写真 15)、NU 卒業生 Daniel Sullivan 氏宅でのフェアウェル・パーティなど、生涯記憶に残ると思われるイベントが盛りだくさんでした。NU 生は、私たちがニューヨークに向けて出発する際、見送りにもきてくれました(写真 16)。



[09] Freedom Trail



[10] Freedom Trail 途中にある旧州議事堂





[11] Massachusetts State House 外観



[12] Massachusetts State House 内



[13] NU 生ホストによるバーベキュー・パーティ(1)



[14] NU 生ホストによるバーベキュー・パーティ(2)



[15] Fenway Park での MLB 観戦



[16] NU 生との別れを惜しむ様子

## ニューヨーク滞在

ニューヨーク・マンハッタンでは、約 1 週間、ホテルに滞在しました。ニューヨーク滞在中は、自由の女神や、セントラル・パーク、ロックフェラー・センターといった観光名所を訪れることはもちろんのこと、SOHO エリアでのショッピングを楽しんだり、ヤンキースタジアムでイチロー選手や黒田選手、田中選手の所属する MLB ヤンキース戦を観戦したり、そして、メトロポリタン美術館、ブロードウェイ・ミュージカル、ジャズといった文化的側面も堪能しました(写真 17-22)。





[17] Rockefeller Center 展望台から見た Central Park



[18] Times Square 夜景



[19] クルージングの船上から見た自由の女神



[20] メトロポリタン美術館前



[21] ヤンキースタジアムでの MLB 観戦



[22] JAZZ 鑑賞

ニューヨークではまた、ニューヨーク証券取引所やグラウンド・ゼロに足を運んだり、国連本部を訪問したり、さらに、コロンビア大学を訪れた際には、政治経済学部国際交流委員会委員長でいらっしゃる武田巧教授と親交が深く、日本経済に精通されている Prof. Patrick と会談させて頂きました(写真 23-24)。





[23] 国連本部内



[24] コロンビア大学 Prof. Patrick(中央右)との記念撮影

## ワシントン D.C.滞在

研修最終地となったアメリカ合衆国首都ワシントン D.C.(※現地ホテルに宿泊)では、まず、ホワイト・ハウス、ワシントン記念塔、スミソニアン博物館、リンカーン・メモリアルといった主要観光スポットでアメリカの歴史を体感しつつ(写真 25-26)、日本大使館と世界銀行への訪問もさせて頂きました(写真 27-28)。



[25] ホワイト・ハウス



[26] ワシントン記念塔とリフレクティング・プール

日本大使館では、毎年ブリーフィングを受けさせて頂いていますが、今年は、昨年引き続き **Economic Counselor** の宮本新吾氏よりお話を伺いました。ブリーフィングの内容は、氏が外務入省後に外交官として取り組まれてきた多種多様な業務に関するものでした。例えば、2009年のインドネシアにおける大規模自然災害の際に事務所の電気も止まる中で自衛隊受け入れの為に様々な調整をされた様子や、狂牛病問題が発生して以降の日本と米国の牛肉輸入条件に関する交渉内容の調整、日本の TPP 参加交渉への参入について米国から合意を取り付けるまでの調整など、とても具体的に氏の外交官としての仕事の実態を聞かせて頂きました。

世界銀行訪問については、こちらも、毎年、職員の畑島宏之氏に便宜を図って頂いていますが、今年も、氏と、政経学部卒業生であり世銀に6年間勤務され現在は IMF に勤務されている菅原直剛氏の両氏から、それぞれ貴重なお話を聞かせて頂きました。畑島氏からは、国際機関全般および世界銀行グループの目的と役割、具体的な活動内容や組織運営、そして、国際機関に勤めるための具体的なキャリアパス・採用方法・人事慣行についてお話を伺い、菅原氏からは、国際機関で働くに至った経緯や現在の仕事内容について、氏の経験をもとにお話を伺いました。



[27] 日本大使館



[28] 世界銀行での畑島氏、菅原氏による講義

日本帰国2日前には英語での最終プレゼンテーション会を行い(写真 29)、帰国前最後の夜は、本研修の最後を飾るべく、1か月間生活を共にした仲間同士で打ち上げパーティを行いました。そして、現地時間の 8 月 29 日早朝にホテルを後にし、日本時間の 30 日夕方に無事、成田空港に到着し、そこで解散しました。



[29] 最終プレゼンテーションの様子

## おわりに

以上のとおり、本プログラムは非常に内容の濃い短期海外研修プログラムとなっていますが、本プログラムを成功させるにあたっては、政治経済学部の大六野耕作学部長、武田巧国際交流委員会委員長をはじめとする国際交流委員会委員の諸氏、政治経済学部事務、そしてその他多くの明治大学関係者より、多大なるご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、上記諸氏の他にも、**Suzanne Ogden** 教授、**Philip D'Agati** 教授、**Daniel Sullivan** 氏、**Oscar Camargo** 氏をはじめとするノースイースタン大学のみなさま、コロンビア大学の水村笑子氏、日本大使館の服部茜氏、そして引率教員である私を研修中ずっとサポートしてくれた TA の岡山宗平氏には大変お世話になりました。諸氏にも感謝申し上げます。最後に、今年のプログラムの成功は、過去の本研修参加学生そして国際交流サポーターが積み重ねてくれた実績の賜物でもあります。彼らにも感謝いたします。

本研修プログラムは来年度も開催を予定しています。明大生のみなさん(そして明大進学を目指している受験生のみなさん)、是非、参加をご検討ください。次年度プログラムの説明会は、後日、開催されます。興味のある方は、**Oh-o! Meiji** や掲示板等で開催告知を確認してください。なお、この研修に参加を希望する学生には、私が前期に担当している「留学準備講座」を履修することも勧めておきたいと思います。

政治経済学部 特任准教授 松崎 武志

以下、参考までに、本年度のノースイースタン大学でのレクチャー概要を掲載します。

**Robert E. Gilbert**, Dept of Political Science,  
Lectures Aug 4, 11, 13

- (1) The Expansion of Presidential Power and Prestige in the United States: Roles Played by the Contemporary American President in the National and International Arenas and Factors Involved in the Development of Executive Power.

Since the time of the first President of the United States, George Washington, to Barack Obama, the 43<sup>rd</sup> president, the range of presidential activities and responsibilities has increased greatly. In both domestic and international arenas, contemporary presidents now play roles that their predecessors did not and were not expected to play. Various factors explain this, including the changing world environment, Congress's role, and the attitudes and expectations of the American people themselves.

- (2) The Cuban Missile Crisis of 1962: John F. Kennedy as President of the United States and Crisis Manager.

The Cuban Missile Crisis of 1962 was almost certainly the most dangerous confrontation between the US and the Soviet Union during the Cold War. It occurred about one year after the Bay of Pigs (Cuba) invasion, authorized by Kennedy in his early days as President, had failed to lead to the expected popular uprising and overthrow of Cuba's Fidel Castro. But what did JFK learn from this failure? The Cuban Missile Crisis suggests he continued to dominate the decision-making processes, refusing to allow Congress or his own advisors to lead him into decisions he thought were unwise.

- (3) The Impact of Illness on the American Presidency: The Cases of Calvin Coolidge, Dwight Eisenhower, Lyndon B. Johnson and Ronald Reagan.

Illness has been a significant factor affecting the decision-making of leaders throughout the world. This talk will focus on American Presidents and the impact their various physical or psychological ailments had on their decisions, with serious consequences for the nation and even the world.

*Suggested Readings* (R. Gilbert)

**Psychological Dysfunction and Great Achievement: The Presidency of Lyndon B. Johnson**, by R. E. Gilbert. (attached)

**Personal Tragedy and Presidential Performance: Calvin Coolidge as Legislative Leader**. By Robert E.

Gilbert (attached)

##



1. **US Foreign Policy: Diplomacy and International Organizations.** President Obama's foreign policy will be examined and compared with earlier American presidents. The foreign policy-making process will be explained and illustrated by considering contemporary international economic, environmental, and other issues. The US role on the world stage will be analyzed. International obstacles and opportunities for the US and world community will be assessed. Throughout there will be reference to the US/Japanese relationship.
2. **US National Security Policy.** An overview of contemporary US national security problems will be presented. Basic concepts such as the security dilemma will be assessed from the perspective of US policy makers. Emphasis will also be placed on the issue of international and domestic terrorism and strategies to combat terrorism. This lecture will also cover the problems and processes of going to war. Implications for Japan will be included in this presentation
3. **US National Security Policy: America's current and possible future wars.** This session will briefly analyze the war in Afghanistan from the perspective of the US as well as Afghanistan, Pakistan, and the international community. Special attention will be placed on the problem of North Korea for the US and its Asian allies. The potential for war with Iran will be discussed. Consideration will be given to threats and possible solutions for the future, including international institutions, the zero nuclear option, etc. There will also be a discussion of key lessons learned in the three sessions for the United States and Japan.

**Suggested Readings (D. Schmitt):**

- A. "Pivoting from a War Footing, Obama Seeks to Curtail Drones," *New York Times*, May 23, 2013.

<http://www.nytimes.com/2013/05/24/us/politics/pivoting-from-a-war-footing-obama-acts-to-curtail-drones.html?pagewanted=all>

- B. "Al Qaeda-Inspired Groups, Minus Goal of Striking U.S.," *New York Times*, October 27, 2012

<http://www.nytimes.com/2012/10/28/world/middleeast/al-qaeda-inspired-groups-minus-goal-of-striking-us.html?pagewanted=all>

- C. "U.S. Is Exploring Talks With Iran on Crisis in Iraq," *New York Times*, June 16, 2014

[http://www.nytimes.com/2014/06/17/world/middleeast/us-and-iran-signaling-new-joint-effort-in-iraq-crisis.html?hp&\\_r=0](http://www.nytimes.com/2014/06/17/world/middleeast/us-and-iran-signaling-new-joint-effort-in-iraq-crisis.html?hp&_r=0)



Lecture 1: Olympics, Politics, and the Surrogate War

This lecture will be an introduction to the utilization of the Olympics and other International Sports competitions as an extension of foreign policy objectives. We will overview the use of Sports in politics for the past century and look at recent examples. We will conclude by looking at the concept of a surrogate war and show how Sports, as a surrogate war, has become a very effective avenue for less violent interstate conflict.

Lecture 2: Tokyo 2020: A City's Need and a Nation's Desire

This lecture covers the 2020 Summer olympics bid process, in which Tokyo won the bid to be host. Students will be introduced to the basics of the bidding process, the three candidates for the 2020 Summer Olympics, and Tokyo's chances of winning. The lecture will go into detail on the value of Hosting the Games for Tokyo and for Japan. We will conclude by discussing the potential for a Tokyo Olympics and the future of Japanese Olympic interests in 2020 and beyond.

Lecture 3: Senkaku

This lecture introduces students to the history behind the Senkaku Dispute as a precursor to understanding the current posturing between China and Japan over the Senkaku islands. We will discuss Japanese and Chinese interests in the islands and the reason for recent saber rattling over the islands by both states. By application of International Relations theory and Game theory, we will establish the potential outcomes for this dispute.

**Readings (P. D'Agati)**

“Surrogate Wars: Fields of Competition for States” (attached)

“Presentation by the Tokyo 2020 Bid Committee at the IOC Session in Buenos Aires

<https://www.youtube.com/watch?v=frLZeeU9760> Please watch the entire video.

UNISCIDP32-1: “THE SENKAKU/DIAOYU ISLANDS TERRITORIAL DISPUTE BETWEEN JAPAN AND CHINA: BETWEEN THE MATERIALIZATION OF THE “CHINA THREAT” AND JAPAN “REVERSING THE OUTCOME OF WORLD WAR II”? Pg 10 - 21. (attached)

“Senkaku/Diaoyu: Islands of Conflict” (attached)

###

**Peter Simon**, Dept of Economics.

Aug 6, 7, 11

- (1) Abenomics, US central bank, the Great Recession, and fiscal policy. Questions about TPP.
- (2) Economics of the drug war in the US and Japan;
- (3) US and Japanese national debt: the threat of bankruptcy and the fate of our grandchildren, the concerns of paralyzed US Congress, the sequester, and the debt ceiling.

References (P. Simon)

Abenomics

<http://qz.com/re/abenomics/>

National debt of Japan

<http://www.telegraph.co.uk/finance/globalbusiness/10233284/1000000000000000-the-size-of-Japans-national-debt.html>

<http://news.stanford.edu/news/2014/march/hoshi-japan-economy-032714.html>

war on drugs

<http://bjc.oxfordjournals.org/content/35/4/491.abstract>

**David Rochefort**, Dept of Political Science.

### **HEALTH REFORM IN THE UNITED STATES (Aug, 12, 9:50)**

After nearly a century of struggling with the issue, the United States finally adopted a national health reform program in 2012. This presentation will examine the strategy of reform now being implemented in the United States, considering its differences from health policy approaches followed in other nations around the world.

### **POLITICAL LANGUAGE AND POLICY DEBATE (Aug, 12, 11:40)**

The use of language plays a critical role in the policy process by intensifying or moderating the level of political conflict and shaping the definition of problems and solutions. This presentation will review important insights from the field of political-language analysis with special focus on the ongoing American health care debate.

### **AMERICA'S OLD AGE CRISIS (Aug 14, 11:40)**

Like many other economically advanced nations, the United States faces a serious challenge due to the growing number of older people in society. This presentation will review the public policy dimensions of this situation, including the debate over transforming Social Security, America's biggest social program.



## Readings (D.Rochefort)

“The Rhetoric of Crisis and Implementing the Affordable Care Act” (PDF attached)

“The Baby Boomers and Social Security” (PDF attached)

**Video** [http://www.youtube.com/watch?v=3-Ilc5xK2\\_E](http://www.youtube.com/watch?v=3-Ilc5xK2_E)

## Special Terms

Partisan

Coverage

Pre-existing condition

High risk pools

Medicare

Medicaid

Health care exchange

Affordable Care Act = Obamacare

###

**Claudia Larson**, Dept of Political Science

Lectures: August 8, 13, and 14, at 9:50

## **Political Culture & National Identity: Explanation & Effects**

This lecture series will push students to consider the connection between government action and a nation’s history, national identity, political culture, institutional design, and citizen activism and participation as well as the connections between these various political elements themselves – connections that appear in arguably *all nations*. Thus, although these lectures will primarily present information regarding the United States’ government system and American politics, they will involve numerous discussions with students regarding Japanese history and political culture, Japan’s national identity, the government institutions in Japan, and Japanese citizens’ involvement in government and politics.

The discussions that focus on political and government factors in Japan will be open forums during which students will actively contribute to the lecture series, providing their firsthand knowledge of Japanese politics and components of government. By drawing comparisons between political factors in Japan and the same political factors in America, the lectures will highlight commonalities to demonstrate how various political elements within any nation can hold significant relationships with each other, with these relationships often powerfully influencing government actions.

The lecture series will begin by discussing America’s political culture and national identity, guided by the following questions: What does it mean to be an “American?” How does U.S. political culture inform Americans’ understanding of who they are as a nation, and how does this national identity affect the

evolution of U.S. political culture? How does American political culture, America's national identity, and their intertwined relationship compare to the same political elements in Japan?

After answering these questions, the lectures will investigate the connections between American political culture/national identity and various features of the U.S. political system, including the design of America's national institutions and power relationships within the U.S. political system.

Finally, then the lectures will use the American Presidency to examine the evolution of the American political system, answering broader questions about political evolution, such as: Why do political institutions change dramatically? What affects how institutions change?

### Key Terms

Political Culture, National Identity, Government Institutions, Liberty, Equality, Democracy, Rule of Law, Individualism

### Readings (to be done in the order listed) (C. Larson)

*Excerpts* from (a .pdf of each excerpt provided):

O'Neil, Patrick H. 2010. *Essentials of Comparative Politics, Third Edition*. New York: W. W. Norton & Company, Inc.

Elkins, David J. and Richard E. B. Simeon. 1979. "A Cause in Search of Its Effect, or What Does Political Culture Explain." *Comparative Politics*. 11: 127-145.

Lockhart, Charles. 1997. "Political Culture and Political Change." In *Culture Matters: Essays in Honor of Aaron Wildavsky*, edited by Richard J. Ellis and Michael Thompson, 91-104. Boulder, CO: Westview Press.